



ユーザーガイド

AWS Pricing Calculator



AWS Pricing Calculator: ユーザーガイド

Copyright © 2024 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは、Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は、Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

とは AWS Pricing Calculator	1
の機能 AWS Pricing Calculator	1
の料金 AWS Pricing Calculator	2
使用開始	3
を使用するための前提条件 AWS Pricing Calculator	3
アクセス AWS Pricing Calculator	3
コンソールを使用する場合	3
の見積りの作成	6
見積りの作成と設定	6
見積りの作成	7
サービスを構成する	7
サービスを追加する	9
入力を編集する	9
AWS Support コストの追加	10
手順	10
見積りの管理	12
見積りのグループ化	12
グループの作成	13
グループの移動	13
見積りの共有	14
見積りリンクの共有	15
保存された見積りの更新	15
見積りのエクスポート	17
Simple Monthly Calculator からの移行	17
見積りもりの違い	18
サービスの例	20
Amazon EC2 の見積りの生成	20
手順	20
Amazon EC2 インスタンスの仕様	21
支払いオプション	23
Amazon Elastic Block Store (EBS)	24
詳細なモニタリングコスト	24
データ転送コスト	24
Elastic IP コスト	25

追加料金	25
EC2 での Windows Server と SQL Server の見積りの生成	25
手順	26
ライセンスとテナンシーの推奨事項	26
マシン仕様の設定	27
料金戦略	30
コストの詳細	30
EC2 上の Windows サーバーと SQL サーバーのチュートリアルを見積もる	31
SQL Dedicated Hosts での Windows サーバーと EC2 Server の見積りの生成	36
手順	37
ライセンスとテナンシーの推奨事項	38
マシンの仕様	38
専有ホストを確認	39
料金戦略	39
コストの詳細	40
専有ホストの一括アップロード手順	40
AWS Modernization Calculator を使用した Microsoft の見積りの生成	42
手順	43
アーキテクチャのカテゴリとパターン	44
アーキテクチャサイズ	45
モダナイズされたアーキテクチャパターン	45
AWS サービス設定	45
マイ見積り	46
セキュリティ	47
データ保護	47
コンプライアンス検証	48
リソース	50
サービス固有のリソース	50
一般的な AWS リソース	50
ドキュメント履歴	52
.....	liii

とは AWS Pricing Calculator

AWS Pricing Calculator は無料のウェブベースの計画ツールで、AWS サービスを使用するためのコスト見積もりを作成するために使用できます。は、次のユースケース AWS Pricing Calculator に使用できます。

- 構築する前にソリューションをモデル化する
- AWS サービス料金ポイントを調べる
- 見積りの背後にある計算を確認する
- AWS 支出を計画する
- コスト削減の機会を見つける

例えば、既存の AWS 顧客で、週ごとのスパイクトラフィックを処理する別の EC2 インスタンスを追加する場合があります。週次ピーク情報を指定し、EC2 インスタンスと支払いオプションを選択できます。は、前払い、月額、年間コストを含む見積り AWS Pricing Calculator を生成します。見積りを使用して、AWS サービスを使用する前に情報に基づいた決定を行うことができます。

Note

クラウドコンピューティングや AWS の使用経験は必要ありません AWS Pricing Calculator。このツールは、AWS これまで一度も使用したことがないユーザーや、AWS 使用を再編成または拡張したいユーザーに役立ちます。

ウェブベースのコンソール AWS Pricing Calculator から にアクセスできます。 <https://calculator.aws/#/>。

の機能 AWS Pricing Calculator

では AWS Pricing Calculator、次のタスクを実行できます。

- 明確な料金を表示 - サービス構成の見積り料金の計算内容を表示します。アーキテクチャコストを分析するために、サービス別またはサービスグループ別の見積り価格を確認できます。
- 階層型見積りにグループを使用 - 明確なサービスコスト分析を得るため、見積りをグループに分類してアーキテクチャに合わせます。

- 見積りの保存 - 各見積りへのリンクを保存して、後で共有または再確認します。見積りは AWS パブリックサーバーに保存されます。
- 見積りをエクスポートする - 見積りを CSV または PDF 形式でエクスポートして、ステークホルダーとローカルで共有します。

の料金 AWS Pricing Calculator

AWS Pricing Calculator は無料のツールです。AWS 料金と料金の見積もりは表示されますが、適用される可能性のある税金は含まれていません。は、入力した情報のみの料金詳細 AWS Pricing Calculator を提供します。マーケティングページの料金が の料金と異なる場合 AWS Pricing Calculator、 は見積りを生成する際にマーケティングページの料金 AWS を使用します。AWS サービスの料金詳細については、「[クラウドサービス料金](#)」を参照してください。

見積り AWS Pricing Calculator の の料金は、AWS Price List API から取得されます。AWS Price List API の詳細については、[AWS Billing ユーザーガイド](#)の[AWS 「Price List API の使用」](#)を参照してください。

使用開始

このセクションでは、 の使用を開始する方法の概要を説明します AWS Pricing Calculator。計算ツールを使用するための前提条件、計算ツールへのアクセス方法、コンソールの操作方法を理解するのに役立ちます。

トピック

- [を使用するための前提条件 AWS Pricing Calculator](#)
- [アクセス AWS Pricing Calculator](#)
- [AWS Pricing Calculator コンソールの使用](#)

を使用するための前提条件 AWS Pricing Calculator

AWS アカウント AWS や の深い知識は必要ありません AWS Pricing Calculator。

最良の結果を得るには、見積り AWS を開始する前に、 の使用方法を計画することをお勧めします。例えば、見積りをコストセンター別、実行する製品別 AWS、またはリージョンスタック別に分類するかどうかを決定します。次に、[Group] (グループ) 機能で見積りを整理します。

アクセス AWS Pricing Calculator

AWS Pricing Calculator は、 <https://calculator.aws/#/> のウェブベースのコンソールから入手できます。現在、使用可能な APIs はありません。

を使用して AWS Pricing Calculator 、任意の サービスで AWS リージョン サポートされているすべての の月額コスト見積りを生成できます。各サービスが利用可能なリージョンについては、対応する [サービスユーザーガイドのドキュメント](#) をご参照ください。

中国リージョンのコストを見積もるには、 <https://calculator.amazonaws.cn/> AWS Pricing Calculator でアクセスできます。

AWS Pricing Calculator コンソールの使用

AWS Pricing Calculator は 4 つの主要なコンソールページで構成されます。

- ランディングページ

このページでは、ツールの仕組みの概要と、見積りを作成するためのリンクを提供します。また、[マーケティングFAQs](#)や[料金の前提条件](#)などの主要なリソースへのリンクも提供します。

直接リンク: <https://calculator.aws/#/>

- サービスページを追加

[見積りの作成] ボタンを選択すると、[サービスの追加ページ] に移動します。このページには、AWS Pricing Calculator サポートするすべての AWS サービスのリストが表示されます。ロケーションタイプでサービスをフィルタリングし、キーワードまたはサービス名を入力してサービスを検索できます。製品ページのリンクを使用して、各サービスの詳細情報を見つけることもできます。

直接リンク: <https://calculator.aws/#/addService>

- サービスの設定ページ

サービスの [設定] リンクを選択すると、サービスの設定ページに移動します。このページを使用して、見積り AWS リージョン を作成する を選択し、ユースケースに基づいてサービス固有の詳細を入力できます。ユースケースの仕様を入力すると、見積りにこれらを追加できます。

- マイ見積りページ

このページには、見積りの概要として、前払いコスト、月次コスト、12 か月間のコストが表示されます。12 か月間のコストは、すべての見積りおよびグループの合計です。[グループ] セクションと [マイ見積り] セクションには、見積り内のサービスのリストが表示されます。このセクションでは、新しいサービスおよびサポートの追加、新しいグループの作成を行うことができます。

さらに、マイ見積りページを使用して、見積りを CSV または PDF ファイルにエクスポートしたり、見積りリンクを保存したり、AWS コンソールに移動してサインインしたり、アカウントを作成したりできます。

直接リンク: <https://calculator.aws/#/estimate>

Note

AWS では、一部の AWS のサービスを無料で試すために使用できる無料利用枠を提供しています。無料利用枠は、特定のインスタンスまたは使用範囲のみを対象としており、期間が限定されます。特に明記されていない限り、無料利用枠は見積りに含まれ AWS Pricing

Calculator ません。は、無料利用枠を使用しておらず、見積りに期限切れの無料利用枠が含まれていない AWS Pricing Calculator と仮定します。

で見積りを生成する AWS Pricing Calculator

このセクションでは、AWS Pricing Calculator を使用してユースケースの見積りを生成する方法について説明します。以下のステップバイステップのプロセスでは、サービスの設定方法、インスタンスタイプやストレージなどのパラメータの指定方法、詳細な見積りを作成するためのサービスの追加方法について説明します。

見積りを最大限に活かすため、基本的な要件を把握しておく必要があります。例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) を試す場合は、必要なオペレーティングシステムのタイプ、メモリ要件、必要な I/O 量を把握しておくことをお勧めします。

さらに、ストレージが必要かどうかを判断する必要があります。例えば、データベースを実行するかどうか、および必要なサーバーをどれくらいの期間で使用するか決めます。AWS Pricing Calculator サービス設定とパラメータを使用して、特定のユースケースと予算を満たすオプションを確認できます。

トピック

- [見積りを作成して設定する](#)
- [見積りへの AWS Support コストの追加](#)

見積りを作成して設定する

AWS Pricing Calculator では、さまざまな のサービス全体の予測 AWS 使用量とコストの詳細な見積りを生成できます。次の手順では、新しい見積りの作成、含める特定の AWS サービスの設定、テクニカルサポート要件に基づく AWS Support プランなどのサービスの追加方法に関するステップバイステップのプロセスを提供します。

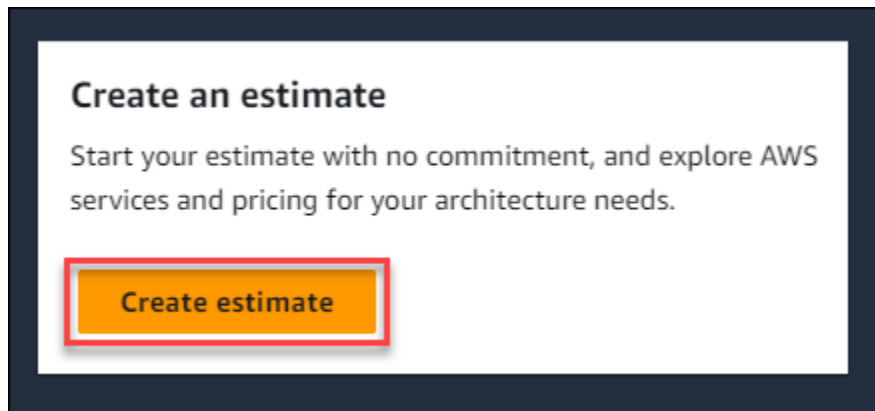
トピック

- [見積りの作成](#)
- [サービスを構成する](#)
- [サービスを追加する](#)
- [入力を編集する](#)

見積りの作成

見積りを作成するには

1. <https://calculator.aws/#/> AWS Pricing Calculator で開きます。
2. [Create estimate (見積りの作成)] を選択します。



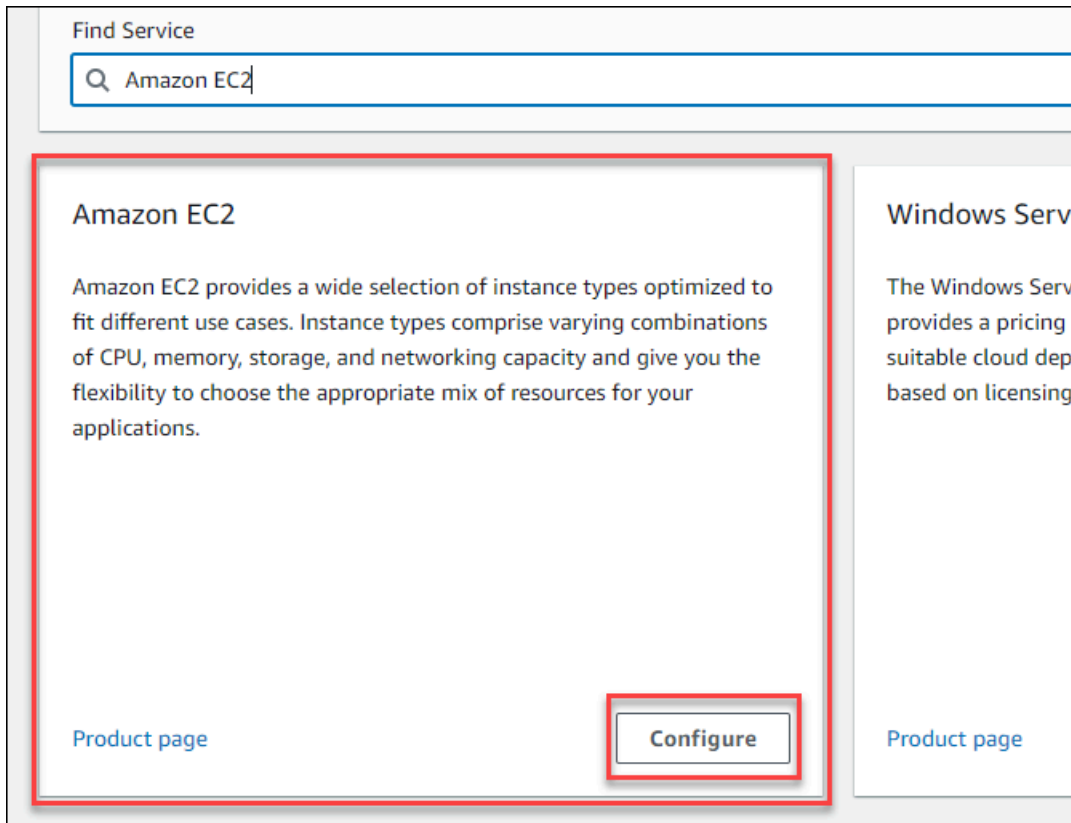
3. [サービスの追加] ページで、必要なサービスを見つけます。次いで、[Configure (設定)] を選択します。詳細については、「[サービスを構成する](#)」を参照してください。
4. 見積りサービスの説明を追加します。
5. [Region (リージョン)] を選択します。
6. サービスの仕様を入力します。
7. [サービスを保存して追加する] を選択します。
8. 作成した見積りを表示するには、[概要の表示] を選択します。

サービスを構成する

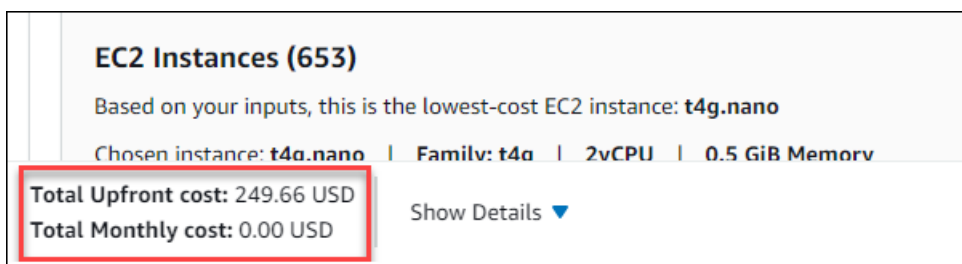
このセクションでは、見積りを作成するサービスを構成する方法を説明します。この例では、Amazon EC2 クイック見積りオプションを使用して Amazon EC2 を追加します。

見積り用にサービスを構成する方法

1. <https://calculator.aws/#/addService> のサービスの追加ページを開きます。
2. 検索バーに **Amazon EC2** と入力して [Configure] (構成) を選択します。



3. [Description] (説明) の欄に見積りの説明を入力します。
4. [Region] (リージョン) を選択します。
5. EC2 仕様セクションで、ユースケースの要件に基づいてパラメータを更新します。
6. この段階では、前払いコストと月額コストの合計を表示できます。これらのコストは、選択した現在の EC2 パラメータに基づいています。



7. (オプション) [計算を表示] を選択して、見積りの損益分岐点分析と使用率の概要を表示します。
8. (オプション) Amazon EBS セクションで、各 Amazon EC2 インスタンスのストレージを選択し、ストレージ量を入力します。

Note

Amazon EBS ボリュームを追加しない場合は、「」と入力します。

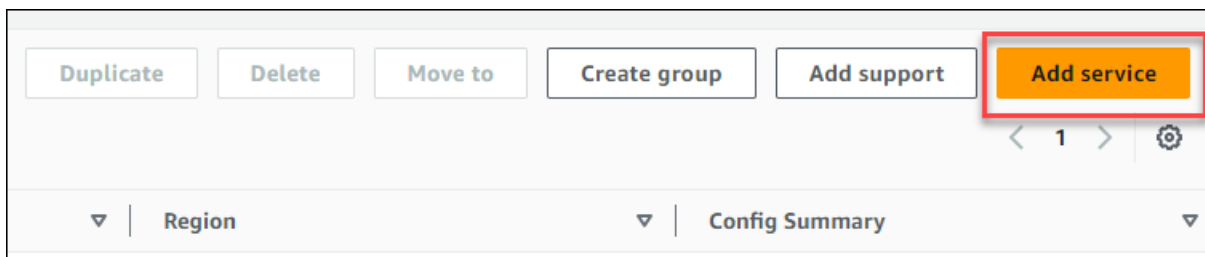
9. [サービスを保存して追加する] を選択します。

サービスを追加する

ユースケースの要件に基づいて、見積りにさらにサービスを追加できます。特定サービスの見積りを表示するプロセス例とチュートリアルについては、「[サービスの見積り例](#)」をご参照ください。

見積りにサービスをさらに追加する方法

1. <https://calculator.aws/#/estimate> の「My estimate」ページを開きます。
2. [Add Service] (サービス追加) を選択。



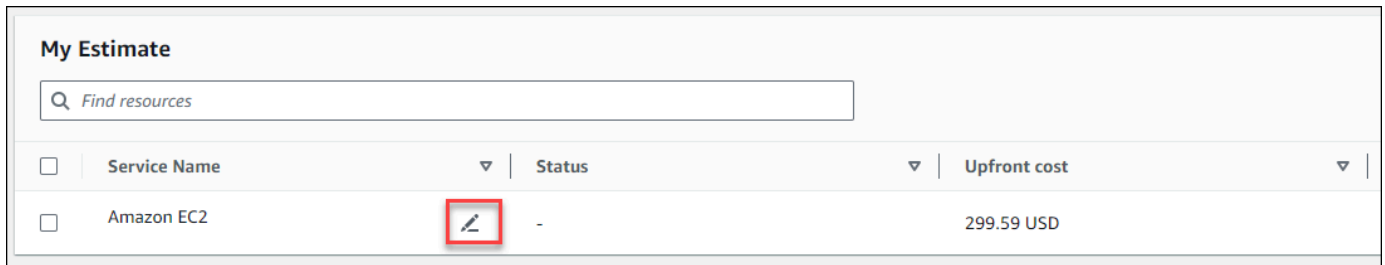
3. サービスを検索して [Configure] (構成) を選択します。
4. サービスパラメータを入力します。次に、[サービスを保存して追加する] を選択します。
5. 必要に応じてこのプロセスを繰り返します。

入力を編集する

見積りに追加されたサービスの入力を編集することができます。

サービスの入力を編集する

1. <https://calculator.aws/#/estimate> の「My Estimate」ページを開きます。
2. [マイ見積り] セクションで、更新するサービスを見つけます。次に、[編集] アイコンを選択します。



<input type="checkbox"/>	Service Name	Status	Upfront cost
<input type="checkbox"/>	Amazon EC2	-	299.59 USD

3. サービス入力を編集します。次に、[保存] を選択して [マイ見積り] ページに戻ります。

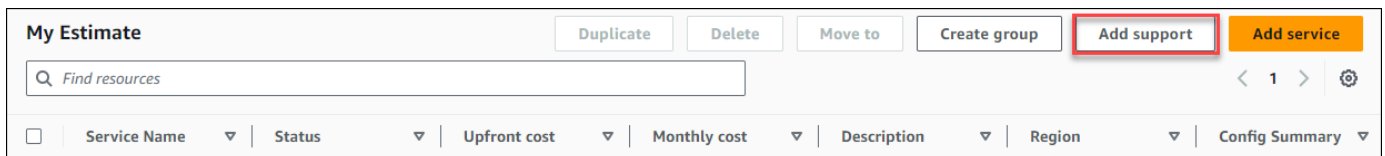
見積りへの AWS Support コストの追加

を使用して、見積りに AWS Support コストを追加できます AWS Pricing Calculator。ご希望のサポートプランを直接選択するか、使用するニーズに合った推奨事項を完了することができます。計算ツール AWS Support 内のはいつでも変更できます。

手順

見積りに AWS Support コストを追加するには

1. <https://calculator.aws/#/> AWS Pricing Calculator で開きます。
2. [Create estimate (見積りの作成)] を選択します。
3. 見積りにサービスを追加します。詳細については、「[見積りの作成](#)」を参照してください
4. [マイ見積り] ページで、[サポートの追加] を選択します。



<input type="checkbox"/>	Service Name	Status	Upfront cost	Monthly cost	Description	Region	Config Summary
--------------------------	--------------	--------	--------------	--------------	-------------	--------	----------------

5. (任意) サポートプランの見積りの説明を入力します。
6. (オプション) 表示されるドロップダウンリストから [強化された技術サポート] レベルを選択します。
7. (オプション) 表示されるドロップダウンリストから [重大度が高い場合の応答] 時間を選択します。

Note

[サポートのレコメンデーション] オプションの一部が使用できない場合があります。これは、選択した [強化された技術サポート] レベルと [重大度が高い場合の応答] 時間によって異なります。

- [サポートのレコメンデーション] オプションを選択します。
- ビジネスサポートプランまたはエンタープライズサポートプランを選択した場合は、ビジネスまたはエンタープライズが毎月 AWS のサービスに平均して支出する金額の範囲を選択します。

Support recommendation
We've selected the lowest plan available that matches your needs to support your success.

Support recommendation options

<input type="radio"/> Basic support plan Included for Free	<input type="radio"/> Developer support plan Starting at 29 USD/mo	<input checked="" type="radio"/> Business support plan Starting at 100 USD/mo
<input type="radio"/> Enterprise On-Ramp Starting at 5,500 USD/mo	<input type="radio"/> Enterprise support plan Starting at 15,000 USD/mo	

Business support plan
We recommend the Business support plan if you have workloads in AWS, and you require 24/7 phone and email access with Support Engineers for unlimited contacts, with response time of less than 1 hour.

Business spend
How much does your business spend on average for AWS services each month?

Support plan
I don't have business support

- (任意) 見積りの計算を確認する場合、[Show calculations] (計算を表示) を選択します。
- [Add to my estimate (見積りへの追加)] を選択します。
- [ビジネスサポートプラン] または [エンタープライズサポートプラン] を選択した場合は、表示されるプロンプトで [確認] を選択します。次に、[見積りへの追加] を選択します。

見積りの管理

このセクションでは、コスト見積もりを効果的に管理および整理 AWS Pricing Calculator するための機能の概要を説明します。

グループを作成して、コストセンター、製品アーキテクチャ、AWS リージョンなどのさまざまな基準に基づいて見積りを分類できます。グループを使用して side-by-side を比較し、AWS デプロイについて情報に基づいた意思決定を行うことができます。

また、作成した見積りごとに一意のパブリックリンクを生成することで、見積りを保存することもできます。さらに、見積りを PDF ファイルまたは CSV ファイルとしてエクスポートできます。

以下のセクションでは、各機能の step-by-step プロセスについて説明します。

トピック

- [グループを使用して見積りの整理](#)
- [見積りの共有](#)
- [見積りのエクスポート](#)
- [Pricing Calculator への Simple Monthly Calculator の見積りへの移行](#)

グループを使用して見積りの整理

グループを定義することで、AWS 見積りを整理できます。グループは、各コストセンターの見積りを提供するなど、会社の組織構造を反映できます。

グループは、製品スタックや製品アーキテクチャなど、他の編成方法を反映できます。例えば、AWS セットアップを構築するさまざまな方法の料金を下げる場合は、セットアップのバリエーションごとに異なるグループを使用して、見積りを比較できます。1つの見積りを生成して、ウェブサイトの実行コストを表示できます。次に、別の見積りを生成して、機械学習プロセスの実行コストを確認できます。その後、AWS 使用量の合計見積りを表示できます。

グループは AWS リージョンを比較するうえでも役立ちます。リージョンごとにグループを作成すると、2つの異なる場所でサーバーを運営するコストを比較できます。例えば、1つのグループで米国東部 (バージニア北部) の見積りを作成し、別のグループでアジアパシフィック (ソウル) の見積りを生成できます。次に、特定のユースケースおよび予算に応じて2つの見積り金額を比較します。

トピック

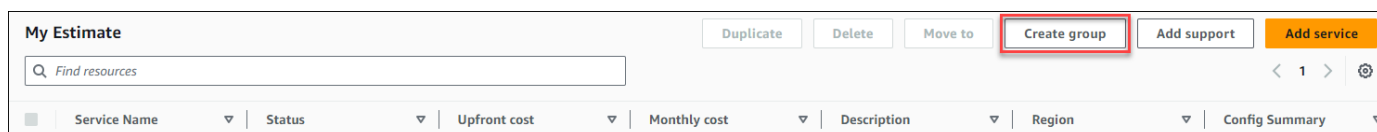
- [グループの作成](#)
- [グループの移動](#)

グループの作成

グループを使用してサービスをまとめて整理します。各グループには 1 つ以上のサービスを追加できます。また、グループを使用してさまざまな方法で見積りを整理することもできます。例えば、コストセンター、サービススタック、製品アーキテクチャ、クライアント別で見積りを整理できます。

グループを見積りに追加するには

1. <https://calculator.aws/#/estimate> estimate で見積りページを開きます。
2. [グループの作成] を選択します。



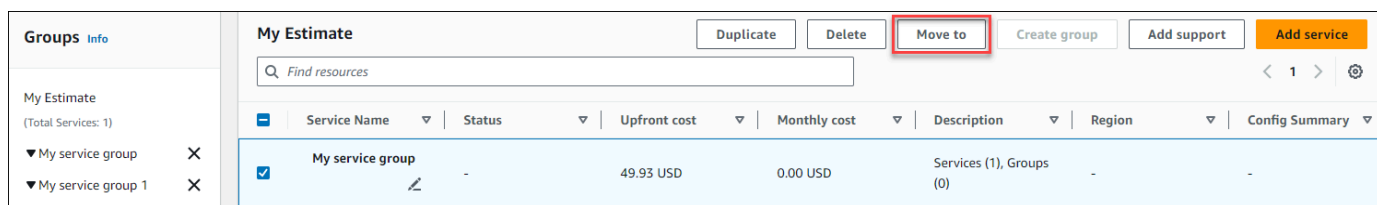
3. 表示されるプロンプトで、グループ名を入力します。
4. [グループの作成] を選択します。

グループの移動

グループやサービスを移動して見積りを整理できます。すべてのサブグループおよびサービスは、アクションの一部として移動されます。このプロセスで単一または複数グループを移動できます。

グループを移動する方法

1. <https://calculator.aws/#/estimate> estimate の見積りページを開きます。
2. 移動するグループとサービスのチェックボックスを選択します。
3. [Move to] (移動先) を選択します。



4. ドロップダウンから移動先グループを選択します。
5. [Move] (移動) を選択します。

Note

選択したサポートプランの見積もりはグループに固有ではないため、AWS Support 計算ツールをグループに移動することはできません。

見積りの共有

作成する見積りごとに固有のパブリックリンクを作成できます。このリンクを使用してステークホルダーと見積りを共有したり、後で見積りにアクセスしたりできます。見積りは AWS パブリックサーバーに保存されます。

見積りに変更を加えると、再度保存する必要があります。不要な上書きを防ぐために、同じリンクに自動的に保存 AWS Pricing Calculator されることはありません。または、共有リンクを一般的なユースケースのテンプレートとして使用し、複雑な見積りを作成する開始点として使用できます。

Note

- 見積りリンクがないと見積りにアクセスできないため、必ず見積りリンクを保存してください。
- PDF または JSON ファイルとしてエクスポートされる見積りには、見積りへの共有リンクが含まれています。
- 見積りリンクは、更新の際に自動的に保存されません。見積り内容を変更した場合は、新しい見積りリンクを生成してください。
- 2023 年 5 月 31 日以降に作成された見積りリンクは 1 年間有効です。この日付より前に作成された見積りリンクは 3 年間有効です。

トピック

- [見積りリンクの共有](#)
- [保存された見積りの更新](#)

見積りリンクの共有

パブリック共有リンクを生成するには

1. <https://calculator.aws/#/> AWS Pricing Calculator で開きます。
2. 1つ以上のサービスを追加して見積りを作成します。詳細については、「[見積りの作成](#)」を参照してください。
3. <https://calculator.aws/#/estimate> の「My Estimate」ページを開きます。
4. [共有] を選択します。
5. [Public server acknowledgment] (パブリックサーバーに関する確認事項) を読んで [Agree and Continue] (同意して継続) を選択します。

(任意) 次回の閲覧のため、[Don't show me this again] (二度と表示しない) を選択できます。

6. [Copy public link] (パブリックリンクをコピー) を選択して生成されたリンクをコピーします。

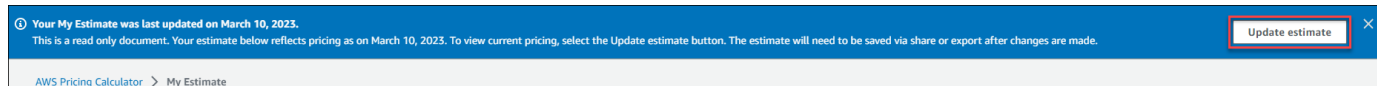
見積りの簡単な説明を表記して共有リンクを文書化することをお勧めします。

保存された見積りの更新

以前に保存した見積り内の合計コストは、時間の経過とともに古くなる可能性があります。これは AWS Pricing Calculator 内の価格の変更またはサービスの更新によるものです。最新の費用を反映するように見積り内を更新して最新の状態に維持することができます。

以前に保存した見積りを更新するには

1. 保存済みの見積り内を AWS Pricing Calculator で開きます。そのためには、一意のリンクをブラウザのナビゲーションバーにコピーします。
2. 見積り内の最終更新日を示すバナーで、[見積り内を更新] を選択します。



3. [マイ見積り] セクションで、更新の [ステータス] 列を確認します。4 種類のステータス値があります。

- 必須入力 — 見積り内のサービスで更新が行われました。現在の見積り内は古くなったため、対応が必要です。[必須入力] ステータスのサービスがある場合、ステップ 4 に進みます。

- **コスト更新済み** — 見積りに影響を及ぼすサービスの価格設定モデルまたはコスト計算の変更が発生しました。料金計算ツールでは、これらの変更に応じて見積もりが自動的に更新されるため、必要なアクションはありません。
- **読み取り専用** — 見積もり内のサービスで更新が行われました。ただし、そのサービス見積もりを直接更新することはサポートされていません。最新のサービス変更を含む an up-to-date 見積もりを表示するには、サービス見積もりを再作成します。新しい見積りの作成方法については、「[見積りのリンクの作成](#)」を参照してください。
- **更新の確認** — グループ内のサービスに対して更新が行われました。現在の見積もりは古くなったため、対応が必要です。[更新を確認] ステータスのグループがある場合は、グループ名を選択すると、影響を受けるサービスが表示されます。ステップ 4 に進みます。

My Estimate							
<input type="text" value="Find resources"/> <input type="button" value="Duplicate"/> <input type="button" value="Delete"/> <input type="button" value="Move to"/> <input type="button" value="Create group"/> <input type="button" value="Add support"/> <input type="button" value="Add service"/> 							
<input type="checkbox"/>	Service Name	Status	Upfront cost	Monthly cost	Description	Region	
<input type="checkbox"/>	Amazon EC2	-	49.93 USD	0.00 USD	-	US East (Ohio)	
<input type="checkbox"/>	Group 1	-	0.00 USD	69,294.59 USD	Services (2), Groups (0)	-	
<input type="checkbox"/>	group 2	ⓘ Check for updates	0.00 USD	319.14 USD	Services (1), Groups (1)	-	

4. [必須入力] ステータスのサービスがある場合、または特定のサービスを変更する場合は、サービス名の横にある編集アイコンを選択します。
5. サービスを変更します。次に、[更新] を選択します。
6. [共有] を選択して変更を保存します。

ⓘ Note

- 見積りを保存すると、新しい見積りリンクが生成されます。更新は元の共有リンクには保存されません。
- のサービスの更新の詳細については AWS Pricing Calculator、[「サービスの更新」](#) を参照してください。

見積りのエクスポート

見積りは PDF AWS Pricing Calculator または CSV ファイルとしてエクスポートできます。これにより、AWS Pricing Calculator が見積りの作成に使用したパラメータを保存して、コンソールで AWS サービスを設定した場合に再確認することができます。

Note

PDF には見積りへの共有リンクが含まれています。

AWS Pricing Calculator 見積りをエクスポートするには

1. <https://calculator.aws/#/> AWS Pricing Calculator で開きます。
2. 1 つ以上のサービスを追加して見積りを作成します。詳細については、「[見積りの作成](#)」を参照してください。
3. <https://calculator.aws/#/estimate> Word#/estimate で見積りページを開きます。
4. [Export] (エクスポート) ドロップダウンを使用して CSV または PDF を選択します。
5. 同意内容を読んで [OK] を選択します。
6. ダイアログボックスで、[Save File (ファイルの保存)]、[OK] の順に選択します。

Pricing Calculator への Simple Monthly Calculator の見積りへの移行

Important

Simple Monthly Calculator (SMC) はサポートされなくなりました。このセクションで説明されている手順 AWS Pricing Calculator を使用して、保存した SMC の見積りをに変換できます。この変換機能は、2023 年 12 月 31 日午後 11 時 59 PST に終了します。

既存の SMC 見積りがある場合は、できるだけ早く変換機能 AWS Pricing Calculator を使用してに移行することをお勧めします。保存した SMC の見積りにアクセスする必要がない場合は、何もする必要はありません。

SMC の見積りを と互換性のある見積りに変換するには AWS Pricing Calculator

1. 一意の SMC 見積りリンクをコピーしてブラウザに貼り付けます。このリンクは、見積もり変換の状況を確認できる AWS Pricing Calculator ウェブサイトへリダイレクトします。
2. レコードの AWS Pricing Calculator 移行された見積りリンクを生成します。これを行うには、[共有] を選択します。

Note

SMC 見積りの生成に失敗した場合は AWS Pricing Calculator、エラーを選択して変換に失敗した理由を確認します。

Simple Monthly Calculator と AWS Pricing Calculator 見積りの違い

SMC の見積りと AWS Pricing Calculator 見積りの合計コストが一致しない理由はいくつかあります。

- AWS 無料利用枠の料金: AWS Pricing Calculator は、コスト計算で無料利用枠の料金を考慮しません。
- 期間: は、コスト AWS Pricing Calculator 計算に 1 か月に 730 時間を使用して計算します。これは、1 年間 365 日 x 1 日 24 時間、1 年 12 か月間の計算に基づいています。

でサポートされていないサービスと機能 AWS Pricing Calculator

Simple Monthly Calculator の見積りは以前に保存され、正常に移行されない場合があります AWS Pricing Calculator。これは、AWS Pricing Calculator 現時点では一部の サービスと機能が でサポートされていないためです。次の表は、現在サポートされていない の概要を示しています AWS Pricing Calculator。

サービス名	でサポートされていない料金機能 AWS Pricing Calculator
Amazon EC2	追加の T2/T3/T4g Unlimited vCpu 時間 レガシー Amazon EC2 インスタンスとインスタンスファミリー

サービス名	でサポートされていない料金機能 AWS Pricing Calculator
Amazon S3	Transfer acceleration Glacier セレクト クロスリージョンレプリケーション
Amazon CloudFront	HTTP リクエスト 無効化リクエスト SSL 証明書
Amazon RDS	RDS Aurora グローバルデータベース
Amazon DynamoDB	グローバルテーブル
Amazon CloudWatch	アーカイブ済みログ メトリクスストリーム
Amazon Redshift	旧世代のノードタイプ
Amazon S3 Glacier	Glacier セレクト
Amazon CloudSearch	サービス全体
Amazon SimpleDB	サービス全体
AWS Key Management Service	カスタマーマネージドキー (CMK) - マルチリージョン

Note

見積りを変更する場合は、新しい AWS Pricing Calculator 共有可能なリンクを生成する必要があります。詳細については、「[見積りの共有](#)」を参照してください。

サービスの見積り例

このセクションでは、AWS Pricing Calculator を使用して特定のサービスの見積りを生成する方法を示す例とチュートリアルを示します。

トピック

- [Amazon EC2 の見積りの生成](#)
- [EC2 での Windows Server と SQL Server の見積りの生成](#)
- [SQL Dedicated Hosts での Windows Server と EC2 Server の見積りの生成](#)
- [AWS Modernization Calculator を使用した Microsoft の見積りの生成](#)

Amazon EC2 の見積りの生成

を使用して AWS Pricing Calculator 、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスのコストを見積もることができます。このセクションでは、Amazon EC2 の見積りを生成する手順と、Amazon EC2 の見積りに選択できる仕様、支払いオプション、アドオンについて説明します。

トピック

- [手順](#)
- [Amazon EC2 インスタンスの仕様](#)
- [支払いオプション](#)
- [Amazon Elastic Block Store \(EBS \)](#)
- [詳細なモニタリングコスト](#)
- [データ転送コスト](#)
- [Elastic IP コスト](#)
- [追加料金](#)

手順

Amazon EC2 の見積りを生成するには

1. EC2/ec2-enhancement Word#/Word/ec2-enhancement で Amazon Word の見積りページを開きます。 <https://calculator.aws/#/createCalculator>

2. Amazon EC2 の見積りの説明を入力します。
3. ドロップダウンから [Location type] (ロケーションタイプ) と [Region] (地域) を選択します。
4. (オプション) 見積りに必要なパラメータを選択します。

- [Amazon EC2 インスタンスの仕様](#)
- [支払いオプション](#)
- [Amazon Elastic Block Store \(EBS \)](#)
- [詳細なモニタリングコスト](#)
- [データ転送コスト](#)
- [Elastic IP コスト](#)
- [追加料金](#)

5. [サービスを保存して追加する] を選択します。

計算ツールビューはデフォルト値が事前にロードされているため、情報を一切追加または変更することなく、初期の見積りを見ることが出来ます。以下のパラメータの値をどれでも変更できます。あるいは、問題なければデフォルトのままにすることも出来ます。

Amazon EC2 インスタンスの見積りパスには、次のセクションとパラメータがあります。

Amazon EC2 インスタンスの仕様

これらの設定により、見積りの生成 AWS Pricing Calculator に使用する Amazon EC2 インスタンスが決まります。

テナンシーを選択する

テナンシーのデフォルト値は Shared Instances です。

オペレーティングシステムを選択

Amazon EC2 instance. のオペレーティングシステムは、選択した OS に一致する Amazon マシンイメージ (AMIs) を使用して見積り AWS Pricing Calculator を生成します。ニーズに最も合致したオペレーティングシステム (OS) を選択します。OS のデフォルト値は Linux です。

インスタンスタイプを選択

AWS Pricing Calculator は、使用可能なすべてのインスタンスタイプを一覧表示します。検索バーでインスタンスをフィルターします。

インスタンスタイプを名前で検索

ご希望のインスタンスファミリーまたはインスタンスサイズがわかっている場合、インスタンス名を検索すると効率的です。たとえば、t2.medium インスタンスを検索できます。

最小要件に基づいてインスタンスタイプを検索する

最小要件は、希望するインスタンスの仕様がわかっている場合、最も役立ちます。例えば、4 vCPUs 以上、16 GB のメモリを持つインスタンスを検索して、ネットワークパフォーマンスを調べることができます。

使用可能な Amazon EC2 インスタンスファミリーの詳細については、[「Amazon EC2 インスタンスタイプ」](#)を参照してください。

EC2 インスタンスの数

デフォルト値は 1 です。このデフォルト値は、必要になる可能性のある最小数であるため、はこのデフォルト値 AWS Pricing Calculator を使用します。

ワークロード

ワークロードは、Amazon EC2 の使用状況に一致する使用パターンです。使用状況に最も近いワークロードを選択することにより、オンデマンドおよび未使用 RI の時間数の購入を減らします。これは、RIs インスタンスとオンデマンドインスタンスの最適な組み合わせで使用状況をカバーすることで実現します。見積りには、複数のワークロードを定義できます。

一定の使用量

このワークロードは、一定かつ予測可能な負荷を持つユースケースに適しています。これには、ウェブサイトへのトラフィック記録したり、プロセスをバックグラウンドで実行したりするユースケースが含まれます。

日次スパイク

このワークロードは、1 日 1 回ピークが発生する使用パターンに最適です。これは例えば、真夜に複数のジョブを実行する必要がある場合、または朝のニューススパイクが発生するシナリオに適しています。

週次スパイク

このワークロードは、週に 1 回ピークが発生するパターンに最適です。これは、週に一回投稿されるブログや、毎週放映されるテレビ番組などのシナリオに適しています。

月次スパイク

このワークロードは、毎月の請求、給与支払い、報告など、月 1 回のスパイクがあるトラフィックに最適です。

支払いオプション

これらの設定により、が見積りの生成 AWS Pricing Calculator に使用する料金戦略が決まります。

料金モデル

料金モデルは、pay-as-you-use インスタンスを検索するか、事前に予約できるインスタンスを検索するかを決定します。インスタンスの予約は、インスタンスの使用料金とは異なります。

予約条件

リザーブドインスタンス (RI) を予約すると、契約期間に応じた予約を購入します。契約期間は 1 年または 3 年を選択できます。

デフォルト値は 1 年です。このデフォルト値は、試すための最もコストの低いオプションであるため、はこのデフォルト値 AWS Pricing Calculator を使用します AWS。

支払いオプション

RI の場合、支払いオプションによって予約の支払い時期が決まります。予約の全額を前払いできます。高額の一括払いとなりますが、毎月の支払いは不要になります。RI は、一部前払いと月払いの組み合わせで支払えます。これは前払いコストを小さく抑えることができますが、毎月のコストが発生します。前払いが発生しない支払い方法も利用できます。これにより、月払いのみとなります。全額前払いでは最高の割引率を利用できます。一部前払いと前払いなしでは、料金を長期間に分散できます。

支払いオプションのデフォルト値はです No Upfront。このデフォルト値 AWS Pricing Calculator を使用すると、起動料金が最も安くなるためです。

EC2 インスタンスの予想される使用率

Amazon EC2 インスタンスの予想される使用状況を入力します。この機能は、オンデマンド料金戦略を選択した場合のみ適用されます。

スポット

計算ツールは、選択したインスタンスの過去の平均割引率を表示します。見積りを作成するための割引率を入力することができます。

Amazon Elastic Block Store (EBS)

これらの設定により、見積りの生成 AWS Pricing Calculator に使用する Amazon EBS の設定が決まります。Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) は、Amazon EC2 インスタンスに接続できるストレージの一種です。これでインスタンスのバックアップ、ブートボリュームの作成、インスタンスにデータベースの実行などの作業を行えます。Amazon EBS の詳細については、[Amazon Elastic Block Store ドキュメント](#)を参照してください。

ストレージボリューム

ストレージボリュームによって、Amazon EBS がインスタンスに割り当てるストレージの種類が決まります。タイプごとに機能が異なります。たとえば、ブートボリュームやバックアップなど、特定のユースケースに応じて、より良い I/O と高速計算、またはより低速で安価なオプションを選択できます。

ストレージ量

ストレージ容量によって、Amazon EBS ボリュームのストレージ容量が決まります。

デフォルト値は 30 GB です。Amazon EBS ボリューム 0 GB を Amazon EC2 インスタンスにアタッチしない場合は、と入力できます。Word/Word EBS#/Word/Word でスタンドアロンの Amazon EBS 計算ツールを設定して見積りに追加することで、追加の Amazon 。 <https://calculator.aws/#/createCalculatorEBS>

詳細なモニタリングコスト

デフォルトでは、基本的なモニタリングのためにインスタンスがオンになっています。オプションで詳細なモニタリングをオンにすることができます。詳細モニタリングを有効にすると、Amazon EC2 コンソールにインスタンスのモニタリンググラフが 1 分間表示されます。詳細については、「[詳細モニタリング](#)」を参照してください。

データ転送コスト

Amazon EC2 との間でデータを転送することで、追加コストが発生する可能性があります。毎月のデータのアップロード/ダウンロード量を推定できる場合は、これらのコストを見積りに追加できます。詳細については、「オンデマンド料金」ページの「[データ転送](#)」セクションを参照してください。

Elastic IP コスト

実行中のインスタンスに 1 つの Elastic IP (EIP) アドレスを無料で関連付けることができます。追加の EIPs をそのインスタンスに関連付けると、そのインスタンスに関連付けられた追加の EIP ごとに 1 時間ごとに日割り計算で課金されます。EIPs が実行中のインスタンスに関連付けられていない場合、またはそれらが停止したインスタンスまたはアタッチされていないネットワークインターフェイスに関連付けられている場合、1 時間あたりの少額の料金が適用されます。詳細については、「オンデマンド料金」ページの「[Elastic IP アドレス](#)」セクションを参照してください。

追加料金

Amazon EC2 の料金見積りにカスタムコストを追加できます。これを使用して、見積りに含めるブレースホルダコストを追加できます。

EC2 での Windows Server と SQL Server の見積りの生成

のワークロード計算ツールを使用すると AWS Pricing Calculator、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) 上の Microsoft Windows Server および SQL Server の AWS テナンシー資格に関するガイドが得られます。ワークロード計算ツールを使用して、最小限の情報とパラメータを使用して AWS コストを見積もることができます。各パラメータの詳細がわからない場合でも、見積りを生成できます。これは、各パラメータにデフォルト設定が含まれているためです。

AWS クラウドで Microsoft ソフトウェアライセンスを使用するオプションについては、「[EC2 での Microsoft ライセンス AWS](#)」を参照してください。

トピック

- [手順](#)
- [ライセンスとテナンシーの推奨事項](#)
- [マシン仕様の設定](#)
- [料金戦略](#)
- [コストの詳細](#)
- [チュートリアル: Word での Windows サーバーと SQL サーバーの見積りの生成 EC2](#)

手順

Amazon SQL で Windows Server と EC2 Server の見積りを生成するには

1. <https://calculator.aws/#/> AWS Pricing Calculator で開きます。
2. [Create estimate (見積りの作成)] を選択します。
3. Amazon SQL の Windows Server と EC2 Server で、設定を選択します。
4. Amazon SQL で Windows Server と EC2 Server を設定するページで、カスタマイズした設定を選択します。
 - テナンスの選択肢の詳細については、「[ライセンスとテナンスの推奨事項](#)」を参照してください。
 - マシン仕様の選択方法については、「[マシン仕様の設定](#)」を参照してください。
 - 料金戦略の選択方法については、「[料金戦略](#)」を参照してください。
 - 費用詳細の選択方法については、「[コストの詳細](#)」を参照してください。
5. [Add to my estimate (見積りへの追加)] を選択します。

ステップバイステップの例は、Amazon SQL で Windows Server と EC2 Server の見積りを生成する方法を示しています。「」を参照してください[チュートリアル: Word での Windows サーバーと SQL サーバーの見積りの生成 EC2](#)。

ライセンスとテナンスの推奨事項

Windows Server および SQL Server の AWS ライセンス入力の選択を通じて、ワークロードのライセンスオプションとテナンスオプションを決定できます。ライセンスオプションには、ライセンス込みオフリングで AWS 提供されるライセンスと、最適なコスト削減のための Bring Your Own License (BYOL) オフリングで提供される既存のライセンスが含まれます。共有テナンスや専有ホストなど、最適なクラウドテナンスを特定できます。

次の表は、サポートされている AWS ライセンスとテナンスのシナリオを示しています AWS Pricing Calculator。

Windows Server	SQL サーバー	AWS テナンス
ライセンス込み	ライセンス込み	共有テナンス
ライセンス込み	BYOL	共有テナンスまたは専有ホスト

Windows Server	SQL サーバー	AWS テナancy
BYOL	BYOL	Dedicated Hosts
BYOL	ライセンス込み	サポートされていません

ライセンスとテナancyの変数には、次のものが含まれます。

- Windows Server ライセンスの購入が 2019 年 10 月 1 日より前または後か
- SQL Server ライセンスが 2019 年 10 月 1 日以降に購入したかどうか
- 独自のライセンス (BYOL) を持ち込むか、SQL Server ライセンスのアクティブなソフトウェアアシュアランスを持っているか

Windows Server または SQL Server の優先設定を選択しない場合、計算ツールは、コスト削減のために既存のライセンスを使用しないライセンス込みシナリオを想定します。

マシン仕様の設定

選択したマシン仕様に基づいて、コストの見積りを生成するために AWS Pricing Calculator 使用する Amazon EC2 インスタンスをお勧めします。推奨インスタンスとは異なるインスタンスを選択したり、単一のワークロードに対して複数のマシン仕様を追加することもできます。

このセクションでは、「マシン仕様の構成」セクションで説明されている用語を定義します。

マシンの説明

マシンの説明。これは通常、ホスト名識別子です。不明な場合は、このマシンで実行されている一意のソフトウェアコンポーネントを指定できます。例えば、WebApp DB1、Webserver 1 などです。

オペレーティングシステム

テナancyの資格に応じて、ライセンスオプション付きのオペレーティングシステムを選択できます。デフォルト値は Windows です。

SQL Server エディション

テナancy資格に応じて、ライセンスオプション付きの SQL Server を選択できます。デフォルト値は SQL Standard です。

仕様ごとのストレージボリューム

このセクションでは、ストレージのニーズを指定できます。ストレージの前払いが必要かどうか分からない場合は、[削除]を使ってそれを見積りから削除できます。このセクションはオプションです。

インスタンスには、ストレージボリュームを関連付けないか、1個以上のストレージボリュームを関連付けることができます。[新しいボリューム]を選択して、インスタンスに複数のボリュームを追加します。

ボリュームごとに異なるボリュームタイプを使用できます。計算ツールは、EBS やスループットなどのオプションの入力に基づいて、適切な Amazon IOPS ストレージタイプを推奨します。

ストレージ量

ストレージ容量のニーズを指定できます。デフォルト値は 1000 GB です。ストレージ量のみを指定した場合、推奨されるデフォルトの Amazon EBS ストレージタイプは `gp3` です (General Purpose SSD (gp3))。

IOPs

IOPS (1 秒あたりの入力/出力オペレーション) は、連続していないストレージロケーションへの読み取りと書き込みの最大数を測定する標準単位です。IOPS は、ソリッドステートドライブ (SSD)、ハードディスクドライブ (HDD)、およびストレージエリアネットワークでのパフォーマンスを記述します。

I/O 集約型ワークロードには IOPs を指定できます。はこの値 AWS を使用して `io2`、Amazon EBS ストレージタイプを推奨する可能性があります。

`io2` は、ボリュームあたり最大 500 IOPS/GB to a maximum of 64,000 IOPS, . It provides up to 1,000 MB/s のスループットの一貫したベースラインパフォーマンスを提供します。

スループット

スループットとは、ある期間にシステムが処理できる情報の単位数を測定したものです。これは、1 秒あたりの I/O 操作数に相当しますが、通常 1 秒あたりのバイト数で測定されます。

この入力は、高いスループットのワークロードに対して指定できます。

`st1` はハードディスクドライブによってバックアップされます。大規模なデータセットと I/O サイズを持つ、頻繁にアクセスされ、高スループットのワークロードに最適です。例としては、MapReduce、Kafka、ログ処理などがあります。

EC2 インスタンスタイプ

EC2 インスタンスタイプのレコメンデーションを取得する

これがデフォルトの選択肢です。vCPUs インスタンスのレコメンデーションを生成する EC2 とメモリの入力の数を選択します。x86 アーキテクチャインスタンスだけが考慮されてます。デフォルトの vCPU 値は 4 で、メモリは 16 GB です。

EC2 インスタンスタイプの検索

このオプションを使用して、推奨インスタンスとは異なるインスタンスタイプを選択できます。

インスタンスを見つけるには、最小要件または名前を検索できます。最小要件は、希望するインスタンスの仕様がわかっている場合に、最も役立ちます。インスタンス名は、インスタンスファミリーまたは希望するインスタンスのサイズがわかっている場合に便利です。例えば、4 vCPUs と 16 GB 以上のメモリを持つインスタンス、または m5 インスタンス名を検索できます。

インスタンスカテゴリなどのフィルタを使用して、インスタンスを検索することもできます。データベースワークロードには、メモリ最適化インスタンスをお勧めします。インスタンスカテゴリフィルタを使用して、すばやく見つけることができます。

CPUの最適化

フルサイズのインスタンスと同じメモリ、ストレージ、帯域幅を使用しながら、vCPUs のカスタム数を柔軟に指定できます。デフォルト値は、マシン仕様に指定された vCPU 入力と同じです。

例えば、x1e.4xlarge インスタンスは現在、デフォルトで 16 vCPU を提供しています。ただし、4、5、6、7、8、9、10、12、14 最適化された vCPUs で x1e.4xlarge を指定できます。つまり、BYOL のお客様は vCPU ベースのライセンスコストを最適化できます。CPU 最適化インスタンスの料金は、Word 用に最適化されていないインスタンスと同じです CPU。

数量

デフォルト値は 1 です。最小値の入力が必要です。

SQLパッシブノード

パッシブ SQL Server ノードは、SQL Server データをクライアントに提供したり、アクティブな SQL Server ワークロードを実行したりしないノードです。このチェックボックスをオンにし、ソフトウェアアシュアランス AWS を使用して SQL Server 2014 以降のバージョンを に持ち込む場合、パッシブノードで SQL Server のライセンスを取得する必要はありません。

料金戦略

料金戦略セクションの選択によって、見積りの生成 AWS Pricing Calculator に使用する料金戦略が決まります。

料金モデル

料金モデルは、pay-as-you-use インスタンスを検索するか、事前に予約できるインスタンスを検索するかを決定します。リザーブドインスタンス (RI) の支払いオプションについては、「支払いオプション」を参照してください。

デフォルト値は Standard Reserved Instances です。これは、これが最も一般的な Amazon EC2 の購入であり、ほとんどのユースケースで最大の割引で柔軟性を提供するためです。

予約期間

RI を予約して、契約期間に応じた予約を購入します。1 年または 3 年の期間を選択します。デフォルトでは、1 年に設定されます。コストを節約するためです。

支払いオプション

RI 予約の場合、支払いオプションは予約の支払い時期を決定します。

全額前払い – 予約全体に対して前払いを行うため、1 回の支払いになりますが、月ごとの定期的な支払いはありません。このオプションは最大の割引を提供します。

一部前払い – 月額お支払いで、一部前払い料金が少なく済みます。

前払いなし – 月単位でのお支払いです。

デフォルト値は、[No upfront] (前払いなし) です。これにより、スタートアップにおける料金を最小に抑えられます。

コストの詳細

コスト詳細のセクションでは、ワークロードの詳細を説明します。

EC2 インスタンスのコスト

EC2 インスタンスの項目別内訳の概要。各行を一時停止して、インスタンスタイプ、オペレーティングシステム、SQL バージョン、vCPU、メモリ、数量、最適化 CPU、SQL パッシブノードなどの追加情報を表示します。

Amazon EBS のコスト

Amazon EBS の項目別コスト内訳。

SQL Bring Your Own License Summary

BYOL SQL Server ライセンスのコア数を明確にするための概要。

チュートリアル: Word での Windows サーバーと SQL サーバーの見積りの生成 EC2

このチュートリアルでは、の Amazon SQL で Microsoft Windows Server と Microsoft EC2 Server を使用して見積り AWS Pricing Calculator を生成する方法を示します。

手順

タスク

- [ステップ 1: を選択する AWS リージョン](#)
- [ステップ 2: ライセンスとテナンシーの推奨事項を選択する](#)
- [ステップ 3: マシンの仕様を設定する](#)
- [ステップ 4: 料金戦略を選択する](#)
- [ステップ 5: 計算とコストの詳細を確認する](#)
- [ステップ 6: Windows LI と SQL Server LI を見積りに追加する](#)

ステップ 1: を選択する AWS リージョン

見積りに名前を付けてリージョンを選択するには

1. Word/SQL の「Amazon EC2 で Windows Server と Word Server を設定する AWS Pricing Calculator」セクションを開きます。 <https://calculator.aws/#/createCalculatorEC2WinSQL>
2. 次の見積りの説明を入力します: Workload_SQL_BYOL。
3. ロケーションタイプが [リージョン] に設定されていることを確認します。次に、US East (Ohio) リージョンを選択します。

Note

すべての AWS リソースは、選択したリージョンに基づいて料金が設定されます。

ステップ 2: ライセンスとテナンシーの推奨事項を選択する

このセクションでは、ライセンスの詳細を指定して、コストが最適化されたテナンシー資格を決定できます。でサポートされているライセンスとテナンシーの詳細については AWS Pricing Calculator、「」を参照してください[ライセンスとテナンシーの推奨事項](#)。

この例のライセンスとテナンシーの推奨事項を確認するには

1. <https://calculator.aws/#/WordcreateCalculator/EC2WinSQL> の「Configure Windows Server and Word Server on Amazon EC2 AWS Pricing Calculator」セクションを開きます。
2. [ライセンスとテナンシーの推奨事項] セクションで、[Windows Server] チェックボックスをオフにします。
3. SQL Server で、両方のオプションを選択します。
4. 共有テナンシーの既定の選択はそのままにします。

推奨されるテナンシーオプションは [Shared (共有済み)] と [Dedicated Hosts (専有ホスト)] です。[Amazon EC2 Dedicated Hosts 計算ツールを使用して](#)、Dedicated Host のテナンシーを見積もることができます。

Licensing and tenancy recommendation [Info](#)

Windows Server

I want to know if I can bring my own licenses (BYOL) to AWS.
Select to determine if you can bring your own license (BYOL) for Windows Server and estimate the costs.

SQL Server

I want to know if I can bring my own licenses (BYOL) to AWS.
Select to determine if you can bring your own license (BYOL) for SQL Server and estimate the costs.

I have active Software Assurance for SQL Server licenses.
Deselect if you do not have Software Assurance for SQL Server. [Learn more](#)

Licensing and tenancy recommendation

You qualify to run SQL Server on either Amazon EC2 shared tenancy or Amazon EC2 Dedicated Host. Choose the tenancy you would like to calculate.

<input checked="" type="radio"/> Amazon EC2 shared tenancy Select to calculate costs for running Linux or Windows Server (AWS license included) and SQL Server (BYOL) on Amazon EC2 shared tenancy. Learn more	<input type="radio"/> Amazon EC2 Dedicated Hosts Select to calculate costs for running Linux or Windows Server (AWS license included) and SQL Server (BYOL) on Amazon EC2 Dedicated Hosts. Learn more
---	--

ステップ 3: マシンの仕様を設定する

このステップでは、マシンの仕様を入力して AWS Pricing Calculator 見積りを設定できます。

次の表は、AWS Pricing Calculatorのいくつかの機能を示すワークロードシナリオの例を示しています。これらの値をこのチュートリアルで使用できます。

ホストの説明	vCPUs	Ram	ストレージ (GB)	IOPS	ソフトウェア	vCPUsの最適化	数量	パッシュブノート数
サーバー 1	16	800	5000	60000	SQL Enterprise Edition	16	10	5
Server 2	16	64	3000	15000	SQL Standard Edition	16	8	4
サーバー 3	8	16	1,000		SQL Web Edition	8	10	0
サーバー 4	4	32	500		Windows	該当なし	8	該当なし

この例でマシン仕様を指定するには

1. Word/SQL の「Configure Windows Server and Word Server on Amazon EC2 AWS Pricing Calculator」セクションを開きます。 <https://calculator.aws/#/createCalculatorEC2WinSQL>
2. [マシン仕様の設定] セクションで、[新しいマシン仕様の追加] ボタンを選択します。
3. [マシンの説明] で、名前を **Server 1** のままにします。
4. [Operating System (オペレーティングシステム)] で、[Windows Server] を選択します。
5. SQL Server Edition (BYOL) で、SQL Server Enterprise を選択します。
6. 仕様ごとのストレージボリュームで、ストレージ量 (GiB) を **5000**として、IOPS を **60000**として入力します。

詳細については、「[マシン仕様の詳細](#)」を参照してください。

7. Amazon EC2 インスタンスタイプで、Amazon EC2 インスタンスタイプのレコメンデーションを取得するを選択します。

詳細については、「[Amazon EC2 インスタンスタイプの詳細](#)」を参照してください。

8. vCPU を最適化するには、最適化CPUの値を のままにします16。

詳細については、「[vCPUsを最適化する利点](#)」を参照してください。

9. [Quantity (数量)] については、**10** を入力します。

10. パッシブインスタンスの数については、[5] を選択します。

11. マシン仕様タイプを追加するには、[Add machine (マシンの追加)] を選択します。

このチュートリアルでは、ワークロードテーブルの例から残りの 3 つのワークロードを追加します。

マシン仕様の詳細

ストレージサイズ (GB) のみを入力すると、計算ツールで最も費用対効果の高い Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) ストレージオプションが提供されます。IOPS **64000**に **16000**と の間の値を入力すると、は io2 EBS ポリリュームタイプ AWS Pricing Calculator を推奨します。その範囲を超える値はすべて、階層化された料金で io2 Block Express AWS Pricing Calculator を推奨します。詳細については、「[Amazon EBS ポリリュームタイプ](#)」を参照してください。

Amazon EC2 インスタンスタイプの詳細

サーバータイプの仕様に対して Amazon EC2 インスタンスタイプのレコメンデーションを取得するを選択できます。AWS レコメンデーションは、Windows Server および SQL Server ワークロードに対して、常にコストが最適化された最新のインスタンスにデフォルト設定されます。

インスタンスタイプをフィルタリングする機能が必要な場合は、Amazon EC2 インスタンスタイプの検索を選択することもできます。インスタンスカテゴリ、メモリ、CPU、およびその他のオプションでフィルタリングできます。

vCPUsを最適化する利点

フルサイズのインスタンスと同じメモリ、ストレージ、帯域幅を使用しながら、vCPUs のカスタム数を柔軟に指定できます。つまり、BYOL のお客様は vCPU ベースのライセンスコストを最適化できます。

CPU 最適化インスタンスの料金は CPU 用に最適化されていないインスタンスと同じですが、CPU 数を柔軟に選択できるため、追加コストを回避するために適切な SQL Server ライセンスを導入できます。例えば、x1e.8xlarge インスタンスのデフォルトは 32 vCPUs です。ただし、Optimize x1e.8xlarge CPU 値を 16、14、または 12 に指定できます。

パッシブ SQL Server ノードを使用すると、追加のコスト最適化が可能になります。パッシブな SQL Server ノードは、SQL Server データを処理したり、アクティブな SQL Server ワークロードを実行したりしません。ソフトウェアアシュアランス AWS を使用して SQL Server をに持ち込む場合、パッシブノードで SQL Server のライセンスを取得する必要はありません。

ステップ 4: 料金戦略を選択する

このステップでは、 の料金戦略セクションを使用して料金モデル AWS Pricing Calculator を選択します。

この例の料金戦略を選択するには

1. <https://calculator.aws/#/WordcreateCalculator/EC2WinSQL> SQL の「Configure Windows Server and Word Server on Amazon EC2 AWS Pricing Calculator」セクションを開きます。
2. [料金戦略の選択] セクションの [料金モデル] で、[スタンダードリザーブドインスタンス] を選択します。
3. [Reservation term (予約期間)] で、[1 year (1 年)] を選択します。
4. [Payment options (お支払いオプション)] で、[No Upfront (前払いなし)] を選択します。

Note

これは、オンデマンド料金と比較して最大 75% 節約できる既定の料金戦略です。詳細については、 [「Amazon EC2 の料金」](#) を参照してください。

ステップ 5: 計算とコストの詳細を確認する

チュートリアル例のこの段階では、コスト見積りの内訳を表示できます。

この例の計算とコストの詳細を表示するには

1. <https://calculator.aws/#/WordcreateCalculator/EC2WinSQL> SQL の「Configure Windows Server and Word Server on Amazon EC2 AWS Pricing Calculator」セクションを開きます。
2. 計算の内訳を表示するには、[計算を表示] の横にある矢印を選択します。
3. EC2 インスタンス、ストレージ、BYOL SQL ライセンス仕様のコスト詳細を表示し、コスト詳細セクションの横にある矢印を選択します。
4. 4 つのサンプルワークロードすべての計算とコストの詳細を確認したら、[サービスを保存して追加] を選択します。

この時点で、Windows Server ライセンス込みおよび SQL Server Bring Your Own License (BYOL) ライセンスのワークロードコストを正常に見積もりました。既存の見積りのクローンを作成して、SQL Server のライセンス込みオプションの見積りを生成する場合は、[に移動します](#) [ステップ 6: Windows LI と SQL Server LI を見積りに追加する](#)。

ステップ 6: Windows LI と SQL Server LI を見積りに追加する

Windows LI と SQL Server LI を見積りに追加するには

1. AWS Pricing Calculatorの [マイ見積り] セクションに移動します。
2. 複製するサービスのチェックボックスをオンにします。次に、[複製] を選択します。
3. 見積りの複製バージョンの [編集] アイコンを選択します。
4. [見積りの詳細] の説明には、**Workload_LI** と入力します。
5. [Region (リージョン)] はそのままにしておきます。
6. 「ライセンスとテナンシーのレコメンデーション」セクションで、Windows Server と SQL Server のチェックボックスをオフにします。
7. SQL Server セクションでは、マシン仕様を確認して調整します。
8. 新しい月額コストの見積りと合計月額コストを確認します。
9. [Update] (更新) を選択します。

[My Estimate (マイ見積り)] ページで、両方のライセンスオプションの下で料金を比較できます。この例では、Windows ライセンス込みおよび SQL Server BYOL オプションでの共有テナンシーは、Windows ライセンス込みおよび SQL Server ライセンス込みでの共有テナンシーのコストの約半分です。

これで、Microsoft Windows Server と Microsoft SQL Server を使用して料金の見積りを作成するチュートリアルは完了です。

SQL Dedicated Hosts での Windows Server と EC2 Server の見積りの生成

のワークロード計算ツールは、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) 上の Microsoft Windows Server および SQL Server の AWS テナンシー資格のガイド AWS Pricing Calculator として使用できます。ワークロード計算ツールを使用して、最小限の情報を使用して AWS コストを見積もったり、概算見積りを生成したりできます。

AWS クラウドで Microsoft ソフトウェアライセンスを使用するオプションについては、「[AWS の Microsoft ライセンス](#)」を参照してください。

トピック

- [手順](#)
- [ライセンスとテナンシーの推奨事項](#)
- [マシンの仕様](#)
- [専有ホストを確認](#)
- [料金戦略](#)
- [コストの詳細](#)
- [専有ホストの一括アップロード手順](#)

手順

Amazon SQL Dedicated Hosts で Windows Server と EC2 Server の見積りを生成するには

1. <https://calculator.aws/#/> AWS Pricing Calculator で を開きます。
2. [Create estimate (見積りの作成)] を選択します。
3. 次のいずれかを行います。
 - Amazon SQL の Windows Server と EC2 Server で、設定を選択します。
 - サービス検索バーから、Amazon SQL で Windows Server と EC2 Server を検索します。次いで、[Configure (設定)] を選択します。
4. Amazon SQL で Windows Server と EC2 Server を設定するページで、カスタマイズした設定を選択します。
 - ライセンスとテナンシーのオプションの詳細については、「[ライセンスとテナンシーの推奨事項](#)」を参照してください。
 - マシンの仕様の詳細については、「[マシンの仕様](#)」を参照してください。
 - 料金戦略オプションの詳細については、「[料金戦略](#)」を参照してください。
 - 専有ホストの確認の詳細については、「[専有ホストを確認](#)」を参照してください。
 - コストの詳細については、「[コストの詳細](#)」を参照してください。
 - 専有ホストのマシン仕様を一括アップロードする方法については、「[専有ホストの一括アップロード手順](#)」を参照してください。
5. [保存してサービスを追加] または [保存して概要を表示] を選択します。

ライセンスとテナンシーの推奨事項

Windows Server および SQL Server の AWS ライセンス入力の選択を通じて、ワークロードのライセンスオプションとテナンシーオプションを決定できます。ライセンスオプションには、License Included (LI) オフアリングで AWS 提供されるライセンスが含まれます。また、最適なコスト削減のために、Bring Your Own License (BYOL) サービス付きの既存のライセンスも含まれています。どのクラウドテナンシーが最適であるかを判断できます。

次の表は、でサポートされている AWS ライセンスとテナンシーのシナリオを示しています AWS Pricing Calculator。

Windows Server	SQL サーバー	AWS テナンシー
LI	LI	共有テナンシー
LI	BYOL	共有テナンシーまたは専有ホスト
BYOL	BYOL	Dedicated Hosts
BYOL	LI	サポートされていません

マシンの仕様

選択したマシン仕様に基づいて、コストの見積りを生成するために AWS Pricing Calculator 使用する Amazon EC2 インスタンスを選択することをお勧めします。また、選択した一意のインスタンスを選択したり、複数のマシン仕様を追加したりすることもできます。

このセクションでは、「マシン仕様の構成」セクションで説明されている用語を定義します。

マシンの説明

マシンの説明。これは通常、ホスト名識別子です。ホスト名識別子が不明な場合は、このマシンで実行されている一意のソフトウェアコンポーネントを指定できます — 例えば、WebApp DB1 または Webserver 1 などです。

オペレーティングシステム

テナンシーの資格に応じて、ライセンスオプション付きのオペレーティングシステムを選択できます。デフォルト値は Windows です。

SQL Server エディション

テナンシー資格に応じて、ライセンスオプション付きの SQL Server を選択できます。デフォルト値は SQL Standard です。

vCPU、メモリ

マシン設定の vCPUs 入力とメモリ入力の数を入力します。例えば、4vCPU と 8GB のメモリなどです。

数量

デフォルト値は 1 です。これが、必要な最小数です。

専有ホストを確認

Review dedicated hosts テーブルには、入力内容に基づいて推奨される専有ホストインスタンスファミリーが表示されます。ホストファミリーと説明、インスタンス、ライセンス数、使用済み容量 (仮想コア) などの詳細を確認できます。リスト数は、特定の専有ホストに必要なライセンスを示します。

インスタンスを選択すると、1 つの専有ホスト内に最適にまとめられたマシンが表示されます。

ダウンロード CSV を選択すると、専用のホスト、インスタンス、ライセンス情報をダウンロードできます。

料金戦略

料金戦略セクションの選択により、が見積りの生成 AWS Pricing Calculator に使用する料金戦略が決まります。

料金モデル

料金モデルは、pay-as-you-use インスタンスを検索するか、事前に予約できるインスタンスを検索するかを決定します。リザーブドインスタンス (RI) の支払いオプションについては、「支払いオプション」を参照してください。

デフォルト値は Standard Reserved Instances です。これは、これが最も一般的な Amazon EC2 購入であり、ほとんどのユースケースで最大の割引で柔軟性を提供するためです。

予約期間

RI を予約すると、契約期間に応じた予約が購入されます。契約期間は、1 年または 3 年からお選びください。デフォルトでは、期間は 1 年です。コストを節約するためです。

支払いオプション

RI 予約の場合、支払いオプションは予約の支払い時期を決定します。

全額前払い – 予約全体に対して前払いを行うため、1 回の支払いになりますが、月ごとの定期的な支払いはありません。このオプションは最大の割引を提供します。

一部前払い – 月額お支払いで、一部前払い料金が少なく済みます。

前払いなし – 月単位でのお支払いです。

デフォルト値は、[No upfront] (前払いなし) です。これにより、スタートアップにおける料金を最小に抑えられます。

コストの詳細

コスト詳細のセクションでは、ワークロードの詳細を説明します。

EC2 インスタンスのコスト

EC2 インスタンスの項目別内訳の概要。各行を一時停止して、インスタンスタイプ、オペレーティングシステム、SQL バージョン、vCPU、メモリ、数量、最適化CPU、SQL パッシブノードなどの追加情報を表示します。

Amazon EBS のコスト

Amazon EBS の項目別コスト内訳。

SQL Bring Your Own License Summary

BYOL SQL Server ライセンスのコア数を明確にするための概要。

専有ホストの一括アップロード手順

一括アップロードを使用して、マシン設定、オペレーティングシステム、SQL サーバーのエディション、数量、vCPU、メモリを Excel ファイルにアップロードできます。バッチアップロードで


は、この Excel ファイルが AWS Pricing Calculator にアップロードされます。これを行うには、提供される Excel テンプレートワークシートを使用します。

Excel ワークシートテンプレートをダウンロードするには

1. <https://calculator.aws/#/> AWS Pricing Calculator で開きます。
2. [Create estimate (見積りの作成)] を選択します。
3. 次のいずれかを行います。
 - Amazon SQL の Windows Server と EC2 Server で、設定を選択します。
 - サービス検索バーから Amazon SQL で Windows Server と EC2 Server を検索します。
4. Amazon SQL で Windows Server と EC2 Server を設定する ページの一括アップロードの手順セクションで、テンプレートのダウンロードを選択します。

詳細については、「[マシンの仕様](#)」を参照してください。

5. ローカルマシンでダウンロードしたファイルに移動します。

 Important

テンプレートから列を削除しないでください。
テンプレートには列を追加しないでください。
テンプレートワークシートの位置は変更しないでください。

 Tip

データ例については、スプレッドシートの「例」を参照してください。

6. [ファイルをアップロード] を選択します。
7. マシン仕様表の [ステータス] 列を参照して、テンプレートが正しくアップロードされたかどうかを確認します。
 - 承認 - 入力されたデータは正しい形式です。このデータは、推奨事項を提供するために使用できます。
 - 拒否 - データ形式が無効です。同じ列からアップロード失敗の理由を確認できます。ファイルを修正したら、前の手順を使用して再度アップロードします。

却下された失敗の理由が解決されない場合、これらの行は「専有ホストのレビュー」表の「専有ホストに関する推奨事項」に含まれません。

8. 専有ホストのレビューセクションを使用して、ホストファミリー、ホストの説明、インスタンス、ライセンス数、使用済み容量などの詳細を確認してください。詳細については、「[専有ホストを確認](#)」を参照してください。
9. Dedicated Host のコストセクションを使用して、ワークロードの詳細を確認してください。

コスト表には、時間あたりのコスト、ユニットあたりの月額コスト、および最初の 12 か月間のコストを含めて、専有ホストの内訳が項目別に表示されます。すべてのコストは USD 通貨で表示されます。
10. License (s) の概要セクションを使用して、推奨される専用ホスト AWS に持ち込む必要があるライセンスのリストを明確にします。
11. [サービスを保存して追加] を選択して見積もり価格を保存し、AWS Pricing Calculator にサービスを追加します。

AWS Modernization Calculator を使用した Microsoft の見積りの生成

AWS Microsoft ワークロード向けのモダナイゼーション計算ツールは、デプロイされたオープンソースおよび AWS クラウドネイティブサービスを使用して Microsoft ワークロードをモダナイズするための料金見積りを提供します AWS。

この計算ツールは、Windows および SQL サーバーアプリケーションを最新のアーキテクチャに変換するための推定総所有コストを作成します。計算ツールを使用するには、は必要ありません AWS アカウント。

AWS Microsoft ワークロード向けのモダナイゼーション計算ツールでは、多層処理、バッチ処理、CI/CD、コンテナ化などのアプリケーションパターンにモダナイズアーキテクチャを推奨しています。これらの推奨事項は、AWS 顧客コミュニティによって一般的に採用されているアーキテクチャに基づいています。この計算ツールを使用すると、信頼性の高い方法でモダナイゼーションコストの見積りを取得できます。詳細な評価を行う必要はありません。この情報を使用して、Migration Hub Strategy Recommendations で詳細な評価を行うことができます。詳細については、「[What is Migration Hub Strategy Recommendations?](#)」 (Migration Hub Strategy Recommendations とは?) を参照してください。

トピック

- [手順](#)
- [アーキテクチャのカテゴリとパターン](#)
- [アーキテクチャサイズ](#)
- [モダナイズされたアーキテクチャパターン](#)
- [AWS サービス設定](#)
- [マイ見積り](#)

手順

Microsoft ワークロード用の AWS モダナイゼーション計算ツールを使用して見積りを生成するには

1. <https://modernization.calculator.aws/microsoft/workload> で Microsoft ワークロードの AWS モダナイゼーション計算ツールを開きます。
2. [新しい見積り] セクションで、この見積りの説明を追加します。
3. [現在のアプリケーション/ワークロードの場所] セクションで、アプリケーションのデプロイ先の現在の場所を選択します。
4. [アーキテクチャカテゴリ] と [アーキテクチャパターン] を選択します。

アーキテクチャのカテゴリとパターンの詳細については、「[アーキテクチャのカテゴリとパターン](#)」を参照してください。

5. [Next (次へ)] を選択します。
6. [アーキテクチャサイズの選択] ページで、アーキテクチャの特性 (オプション) とサイズを選択できます。

詳細については、「[アーキテクチャサイズ](#)」を参照してください。

7. [Next (次へ)] を選択します。
8. [モダナイズされたアーキテクチャパターンの選択] ページで、アプリケーションのモダナイズされたアーキテクチャパターンを選択します。

詳細については、「[モダナイズされたアーキテクチャパターン](#)」を参照してください。

9. [Next (次へ)] を選択します。
10. [サービス設定の編集] ページで、推奨事項の概要を確認します。

詳細については、「[AWS サービス設定](#)」を参照してください。

11. Microsoft 見積りの概要については、[保存] を選択します。

詳細については、「[マイ見積り](#)」を参照してください

アーキテクチャのカテゴリとパターン

[アーキテクチャパターン]、[ユースケース] または [カスタム] から選択して、アプリケーションのアーキテクチャカテゴリを指定できます。カテゴリを選択すると、アプリケーションを分析するための追加オプションが提供されます。

- [Architecture pattern] (アーキテクチャパターン) とは、組織内のソフトウェアシステムの基本スキーマを指します。プログラムの構造的構成と要素間の相互作用を定義します。ほとんどの企業で一般的に見られるパターンには、次のものがあります。
- [Multi-tier] (多層) パターンは、何十年もの間、基盤となるアーキテクチャパターンであり、ユーザー向けアプリケーションにとっては依然として一般的なパターンです。通常、多層パターンは、プレゼンテーション層、データ層、およびロジック層で構成されます。これらの3つの層は、同じサーバーまたは個別のサーバー上でホストできます。このパターンは、分離および独立したスケーラブルなアプリケーションコンポーネントを個別に開発、管理、およびメンテナンスできるようにするための一般的なフレームワークを提供します。
- [バッチ処理] は、コンピュータが大量の繰り返しデータジョブを完了するために定期的に使用する方法です。バックアップ、フィルタリング、ソートなどの特定のデータ処理タスクは、個々のデータトランザクションで実行するために計算量が多く非効率的な場合があります。代わりに、データシステムでは、そのようなタスクをバッチで処理します。これらのタスクは、夕方や夜間などのオフピーク時に処理されます。
- [Use case] (ユースケース) には、グループ化されたアーキテクチャパターンが含まれます。このグループ化は、タスクの実行に関するさまざまなチームによるコラボレーションを表します。ユースケースはさらに次のように分類されます。
- [ソフトウェア開発] には、ソフトウェアの作成、テスト、ステージング、デプロイなどのいくつかのステップが含まれます。組織内の複数のチームがグループとしてコラボレーションを行ってソフトウェアを作成します。
- [Container] (コンテナ) は、アプリケーションのコード、設定、および依存関係を1つのオブジェクトにパッケージ化する標準的な方法を提供します。コンテナは、サーバーにインストールされたオペレーティングシステムを共有し、リソースが分離されたプロセスとして実行します。これにより、環境に関係なく、迅速で信頼性が高く、一貫性のあるデプロイが保証されます。コンテナは軽量で、一貫性のある移植可能なソフトウェア環境を提供し、実質的に場所に制限されることなくアプリケーションを実行およびスケールできます。マイクロサービスの構築とデプロ

イ、機械学習アプリケーションのバッチジョブの実行、既存のアプリケーションのクラウドへの移行は、一般的なユースケースの一部にすぎません。

- カスタムカテゴリでは、AWS のサービス リストから関連する を選択して、カスタムアーキテクチャを構築できます。これは、アプリケーションのアーキテクチャパターンにおける AWS のサービス とその役割に精通している場合に適しています。

アーキテクチャサイズ

このステップには、アプリケーションのアーキテクチャの詳細に関する短いアンケートが含まれます。質問はすべてオプションです。回答に基づいてサイジングの推奨事項が提供されます。デフォルトの推奨事項は [スモール] です。

質問に答えることを選択した場合、計算ツールはサイズを推奨します。推奨されたサイズで続行するか、ビジネス要件を満たすサイズを選択できます。

モダナイズされたアーキテクチャパターン

前のステップで入力した内容に基づいて、モダナイズされたアーキテクチャパターンオプションが提供されます。パターン図をダウンロードして詳細を確認できます。

複数のオプションが表示された場合は、推奨されるパターンまたは別のパターンを選択できます。オプションがない推奨事項が 1 つある場合は、推奨されるパターンを選択して次のステップに進みます。

AWS サービス設定

このページでは、推奨事項の概要を示します。推奨 のリストが表示されます AWS のサービス。任意のサービスを追加または削除し、各サービスの推奨設定を変更できます。

- [AWS リージョン] には、モダナイズされたアプリケーションをホストするリージョンを選択できるドロップダウンリストがあります。AWS のサービスの料金はリージョンに応じて異なる場合があります。
- [推定コスト] には、モダナイズされたアプリケーションを AWS 上で実行するための月額コストの合計が表示されます。このコストは実際の料金見積りとして意図されたものではありません。データ転送料金や、AWS のサービスによって提供される追加の設定は考慮に入れていません。
- [AWS のサービス] には、モダナイズされたアプリケーション向けに推奨されるサービスの一覧が表示されます。このリストから任意のサービスを追加または削除できます。各サービスカードを展

開して、そのサービスのサイズとパラメータを変更できます。また、各サービスカードにある [計算の表示] を拡張することで、各サービスのコストの内訳を確認することができます。

- [Save] (保存) を選択すると、[My Estimate] (マイ見積り) ページに見積りがグラフィカルに表示されます。

マイ見積り

このページでは、モダナイズされたアプリケーションの見積りを提供します。このページでは以下の操作を実行できます。

- 同じワークロードの複製、または新しいワークロードの見積りへの追加。
- ワークロード内のアプリケーションの数の増減。
- ワークロードを編集 AWS のサービスとして、推奨 を変更します。
- 見積り AWS Support にアクセスするためのコストを追加します。
- Excel ファイルにエクスポートするか、一意の URL を使用して見積りを共有します。

共有見積りを取得して変更する場合は、変更されたバージョンを保存して共有する必要があります。修正内容は、元の見積りには自動的に追加されません。

のセキュリティ AWS Pricing Calculator

でのクラウドセキュリティが最優先事項 AWS です。お客様は AWS、セキュリティを最も重視する組織の要件を満たすように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャからメリットを得られます。

セキュリティは、AWS とユーザーの間で共有される責任です。[責任共有モデル](#)では、これをクラウドのセキュリティおよびクラウド内のセキュリティと説明しています。

- クラウドのセキュリティ — AWS クラウドで AWS サービスを実行するインフラストラクチャを保護する AWS 責任があります。AWS また、では、安全に使用できるサービスも提供しています。[AWS コンプライアンスプログラム](#)コンプライアンスプログラムの一環として、サードパーティーの監査者は定期的に当社のセキュリティの有効性をテストおよび検証。が適用されるコンプライアンスプログラムの詳細については AWS Pricing Calculator、[AWS 「コンプライアンスプログラムによる対象範囲内のサービス」](#)を参照してください。
- クラウド内のセキュリティ — お客様の責任は、使用する AWS サービスによって決まります。また、お客様は、データの機密性、会社の要件、適用される法律や規制など、その他の要因についても責任を負います。

AWS Pricing Calculator はパブリックインターフェイスです。提供された情報は保存されず、入力を収集したり、入力を AWS アカウントと関連付けたり AWS することはありません。

トピック

- [でのデータ保護 AWS Pricing Calculator](#)
- [のコンプライアンス検証 AWS Pricing Calculator](#)

でのデータ保護 AWS Pricing Calculator

責任 AWS [共有モデル](#)、でのデータ保護に適用されます AWS Pricing Calculator。このモデルで説明されているように、AWS はすべての を実行するグローバルインフラストラクチャを保護する責任があります AWS クラウド。お客様は、このインフラストラクチャでホストされているコンテンツに対する管理を維持する責任があります。このコンテンツには、使用する AWS サービスのセキュリティ設定および管理タスクが含まれます。データプライバシーの詳細については、[「データプライバシー FAQ」](#)を参照してください。欧州におけるデータ保護の詳細については、AWS セキュリティブログの[AWS 「責任共有モデルとGDPR」](#) ブログ記事を参照してください。

データ保護の目的で、AWS アカウント 認証情報を保護し、AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して個々のユーザーアカウントを設定することをお勧めします。この方法により、それぞれのジョブを遂行するために必要な許可のみを各ユーザーに付与できます。また、次の方法でデータを保護することをお勧めします。

- 各アカウントで多要素認証 (MFA) を使用します。
- SSL/TLS を使用して AWS リソースと通信します。TLS 1.2 以降をお勧めします。
- で API およびユーザーアクティビティのログ記録を設定します AWS CloudTrail。
- AWS 暗号化ソリューションと、サービス内のすべての AWS デフォルトのセキュリティコントロールを使用します。
- Amazon Macie などのアドバンスドマネージドセキュリティサービスを使用します。これは、Amazon S3 に保存されている個人データの検出と保護を支援します。
- コマンドラインインターフェイスまたは FIPS AWS 経由で にアクセスするときに API 140-2 検証済みの暗号化モジュールが必要な場合は、FIPS エンドポイントを使用します。使用可能な FIPS エンドポイントの詳細については、[「連邦情報処理規格 \(FIPS\) 140-2」](#)を参照してください。

顧客の E メールアドレスなどの機密情報やセンシティブ情報は、タグや [名前] フィールドなどの自由形式のフィールドに配置しないことを強くお勧めします。これは、コンソール、API、または AWS SDKs を使用して AWS CLI AWS Pricing Calculator または他の AWS のサービスを使用する場合も同様です。タグまたは名前に使用する自由記入欄に入力したデータは、課金や診断ログに使用される場合があります。URL を外部サーバーに提供する場合は、そのサーバーへのリクエストを検証するために認証情報を URL に含めないことを強くお勧めします。

のコンプライアンス検証 AWS Pricing Calculator

サードパーティーの監査者は、複数の コンプライアンスプログラム AWS Pricing Calculator の一環としてのセキュリティと AWS コンプライアンスを評価します。AWS Pricing Calculator は AWS コンプライアンスプログラムの対象ではありません。

特定のコンプライアンスプログラムの対象となる AWS サービスのリストについては、「[コンプライアンスプログラムAWS による対象範囲内のサービスコンプライアンスプログラム](#)」を参照してください。一般的な情報については、[AWS 「コンプライアンスプログラム」](#)を参照してください。

を使用する際のお客様のコンプライアンス責任 AWS Pricing Calculator は、お客様のデータの機密性、貴社のコンプライアンス目的、適用される法律および規制によって決まります。では、コンプライアンスに役立つ以下のリソース AWS を提供しています。

- [セキュリティとコンプライアンスのクイックスタートガイド](#) — これらのデプロイガイドでは、アーキテクチャ上の考慮事項について説明し、機密性とコンプライアンスに焦点を当てたベースライン環境を AWS にデプロイするためのステップを提供します。
- [AWS コンプライアンスリソース](#) — このワークブックとガイドのコレクションは、お客様の業界や地域に適用される場合があります。
- 「[デベロッパーガイド](#)」の「[ルールによるリソースの評価](#)」 – この AWS Config サービスは、リソース設定が社内プラクティス、業界ガイドライン、および規制にどの程度準拠しているかを評価します。AWS Config
- [AWS Security Hub](#) – この AWS サービスは、内のセキュリティ状態を包括的に把握し、セキュリティ業界標準とベストプラクティスへの準拠を確認するのに役立ちます。

リソース

このサービスを利用する際に役立つ関連リソースは次のとおりです。

サービス固有のリソース

各 AWS サービスには、サービスの理解に役立つ独自のドキュメントがあります。

- [AWS Pricing Calculator よくある質問](#) – AWS マーケティングページに記載されているFAQsを調べる
- [AWS Pricing Calculator 料金の前提条件](#) — AWS Pricing Calculator 料金の免責事項を理解します。
- [AWS IQ](#) — IQ AWS の AWS 認定エキスパートと接続して、見積りに関するヘルプを入手してください。
- [Amazon Elastic Compute Cloud ドキュメント](#) — Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) を使用するためのドキュメントを提供します。
- [Elastic Load Balancing のドキュメント](#) – このドキュメントは Elastic Load Balancing の使用について説明しています。
- [Amazon Elastic Block Store のドキュメント](#) – このドキュメントは Amazon Elastic Block Store の使用について説明しています。

一般的な AWS リソース

AWS には、役立つガイド、フォーラム、連絡先情報、その他のリソースがいくつか用意されています。

- [AWS デベロッパーリソースセンター](#) — ドキュメント、コードサンプル、リリースノート、および革新的なアプリケーションの構築に役立つその他の情報を一元的に見つけることができます AWS。
- [AWS トレーニングとコース](#) – AWS スキルを磨き、実践的な経験を積むのに役立つ、ロールベースの特別コースとセルフペースラボへのリンク。
- [AWS デベロッパーツール](#) – ドキュメント、コードサンプル、リリースノート、および革新的なアプリケーションの構築に役立つその他の情報を提供するデベロッパーツールとリソースへのリンク AWS。

- [AWS Support センター](#) – AWS Support ケースを作成および管理できるハブ。また、フォーラム、テクニカルFAQs、サービスヘルスステータス、など、その他の役立つリソースへのリンクも含まれています AWS Trusted Advisor。
- [AWS Support](#) – クラウドでのアプリケーションの構築と実行に役立つ AWS Support、a one-on-one の高速応答サポートチャネルに関する情報の主要なウェブページ。
- [お問い合わせ](#) – AWS 請求、お客様のアカウント、イベント、不正使用、その他の問題に関するお問い合わせの受付窓口です。
- [AWS サイト規約](#) – 当社の著作権と商標、お客様のアカウント、ライセンス、サイトアクセス、およびその他のトピックに関する詳細情報。

ユーザーガイドのドキュメント履歴

次の表に、このリリースのドキュメントを示します AWS Pricing Calculator。

- ドキュメントの最新更新日: 2019 年 12 月 16 日

変更	説明	日付
新しい保存と共有機能	見積りの保存と共有セクションを追加しました。	2019 年 12 月 16 日
UI の更新	UI が更新され、ネストされたグループが有効になりました。	2018 年 12 月 17 日
初回起動	ドキュメントの初版。	2018 年 10 月 23 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。